

「横浜のフェアトレードネットワークを広げる交流セミナー」 開催報告

佐藤 輝^{*1)}・武田 淳²⁾・渡末 絢³⁾

1. 開催主旨とプログラム

発展途上国の多数の小規模な生産者を継続的に支援し、現地の環境保全にも貢献するフェアトレードとSDGsの活動を横浜でさらに発展させるために、バレンタインデーを控えた2月上旬に、この分野を手掛ける横浜市内の団体・企業・行政・大学・市民の連携を深める（お互いを知る）セミナーを開催した。すなわち、佐藤が顧問を務めるフェリス女学院大学国際協力学生団体 Keep The Smile（キープ・ザ・スマイル、以下KTSと略す）の主催によって、2023年2月11日（土）13:00～14:45にランチ横浜南部市場NANBU BASE（写真1のレンタルコミュニティスペース）にて、標題のイベントを無事に終えることができたので、事後アンケートの結果とともに紹介する。対面とオンライン会議システムZoomを使ったハイブリッド形式を採用した。

日本環境学会からは共催の承諾を得て、共同研究プロジェクト「企業・自治体による環境・社会貢献活動の連携促進をねらったプラットフォームの構築」に所属する筆者らが登壇した。もう一つの共催先である株式会社キクシマからは、同社のSDGs基金による資金面の支援をいただいた。後援では、横浜市経済局、およびグリーン購入ネットワークに広報面で協力いただいた。主なプログラムは以下のとおりである。

- ①開会 13:00～13:05 挨拶：KTS主将 八木彩佳



写真1 セミナー会場となったランチ横浜南部市場NANBU BASE（2023年2月11日、八木彩佳撮影）

- ②講演 13:05～13:35「フェアトレードの環境活動化とフェアトレード大学の実践事例」

武田 淳（静岡文化芸術大学准教授）

- ③各団体・店舗の活動発表会 13:35～14:20
（約10分間×横浜市内4団体）

- 1) 株式会社ショコラボ「ショコラ房」
- 2) NPO法人WE21 ジャパン 民際協力室
- 3) 有限会社ネパリ・バザーロ
- 4) フェリス Keep The Smile

コメント：渡末 絢（日本環境学会企画部長）

- ④ディスカッション 14:20～14:40「若い世代によるSDGsへの参加・貢献をめざして」

- ⑤閉会 14:40～14:45 挨拶：KTS顧問 佐藤 輝

なお、会場の内外で10:00～16:00には、アグロフォレストリー（森林農法）によって生産され

¹⁾ フェリス女学院大学国際交流学部、〒245-8650 神奈川県横浜市泉区緑園4-5-3

²⁾ 静岡文化芸術大学文化政策学部、〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1

³⁾ 日本品質保証機構地球環境事業部（本稿の内容については所属先の業務としてではなく、個人の研究として参画した。）、〒101-8555 東京都千代田区神田須田町1-25 JR神田万世橋ビル17F

* 連絡責任者：satoteru@ferris.ac.jp

たマダガスカルフェアトレードチョコレートや香辛料、ドライフルーツ等のワゴン販売を KTS が実施した。

2. 発表内容の概略

武田は、ハイブリッド開催の利点を生かし、出張中のパプアニューギニアからの「登壇」であった。同国をはじめとする発展途上国のかかえる構造的な貧困に関する問題提起とともに、これを解決する有効な手段の一つとしてフェアトレードをさらに日本で広げるためには、消費者向けに商品の社会背景をもっと丁寧に伝えていくことが重要だと強調した。つまり、最新の事例としてチョコレートの主要産地ガーナにおける周辺国からの出稼ぎによる児童労働（南南問題）については日本ではほとんど知られていないことを指摘した。一方、所属大学の日本初の「フェアトレード大学」ならではの成果として、世界的なコーヒー豆需要の増加に伴う果肉部分（南米ではカスカラと呼ぶ）の廃棄物問題を解決するために、フェアトレード学生団体や武田自身がカスカラティーの商品開発・販売に至った経緯を解説した。

次に一つ目の活動発表として（株）ショコラボの川村茜氏から、障がい者と健常者とのコラボレーションによる彩り豊かで高品質のフェアトレードチョコレート類の製造過程とその理念について、動画を交えながら報告があった。二つ目として、WE21 ジャパンの小池絢子氏から、フィリピンのアグロフォレストリー（森林農法）によって生産されたショウガ糖を使ったクッキーのオリジナル商品等の紹介があり、生産者にとっての環境保全面、社会面、経済面の意義（公正さ）について総括があった。三つ目の（有）ネパリ・バザーロの高橋百合香氏は、多くの現場との「顔の見える関係性」を築いてきたフェアトレード商品の中から、今回は独自の沖縄カカオプロジェクトを取りあげ、LiSA（Low Input Sustainable Agriculture）チョコレートを通じた生産者への継続的な支援と平和への願いを訴えた。最後に KTS のメンバー、特に 2～3 年生が、販売中のフェアトレードチョコレートの特長や今後の活動計画について説明した。

ここでは紙幅の制限のために各団体の魅力のすべてを詳述できないので、ぜひ各ホームページ、

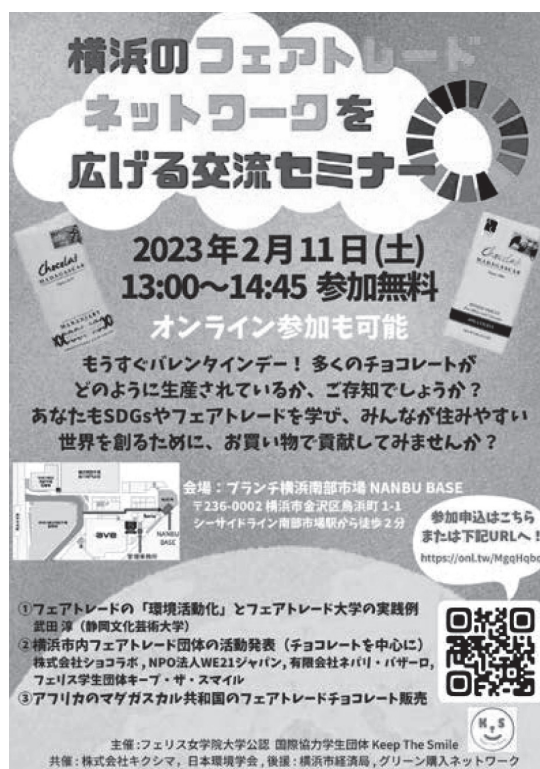


図1 本学会共催によるフェアトレード交流セミナーのチラシ（主催の学生団体メンバーが制作）

あるいは Facebook 等の SNS をご覧いただきたい。

3. 広報とアンケート結果

一般の参加者数は、来場が 13 名（中学生 3 名、大学生 3 名を含む）、オンラインが 7 名（中学生 2 名、大学生 1 名、大学院生 1 名を含む）であり、若者が多かった。開催の 1 ヶ月前からの広報では、横浜市内を中心にフェアトレード店、大学の国際系学部・研究室、一部の市営施設などの約 70 ヶ所に対してカラー印刷のチラシ（図 1）を郵送しつつ、日本環境学会のホームページの新着情報欄と企画部 Facebook、グリーン購入ネットワークのホームページとメールマガジン、フェリス女学院大学のホームページ、KTS の Instagram 等のインターネット媒体でも発信した。参加者への事後アンケート（回収率 75%）によると、このイベントを知ったきっかけは「知人からの紹介」と「紙のチラシ」がほぼ同数であり、結果的にこれらがほ

とんどを占めていた。したがって、今回のインターネット媒体先は当イベントの参加呼びかけにはあまり向いていなかったのかもしれない。

KTSの発案によって、コロナ感染対策を施しながら来場の参加者全員にカスカラティー（上述）を試飲してもらったところ、「黒豆茶のような風味でおいしい」、「もっと飲みたい」との声が多く聞かれた。また、各団体の取り扱う代表的なチョコレートやクッキーも一部を試食してもらった。このためか、来場者からのアンケート結果では、セミナー全体への満足度として5段階評価のうち最上位の「とても満足」との回答が7割を占め、残りが次いで「満足」だった。一方でオンライン参加者の結果では「とても満足」が3割にとどまり、「満足」が7割を占め、来場者とのあいだに大きな差が生じてしまった。試食、試飲の提供に加えて、後半のディスカッションの時間が十分に確保できず、オンライン参加者には発言の機会がほとんどなかったこともこの差異の一因であると推察した。

アンケートの自由記述欄では「フェアトレードの勉強だけでなく、学校で実際に活動したくなりました。」「フェアトレードの部活のある高校や、フェアトレードについて学べる大学がある事に驚き、私の周りの地域は遅れているなあと感じました。」「県内各地でご活躍の皆様による生の声を聞くことができて大変に有意義でした。」「今回のセミナーを通じて私たちが疑問に思っていたことのヒントを得ることができました。」「若い方と一緒に活動して今後も進めることができると嬉しいです。」「とても充実した時間を過ごすことができました。」といった好意的な感想がほぼ6割の参加者から寄せられた。

4. 反省点と今後の展望

まず反省しなければいけないのは開催日の設定である。つまり、KTS内の議論に基づき、バレンタインデー直前にゲストを招いてのセミナーを企画したものの、この時期は各団体ともにバレンタインデーに向けた繁忙期（百貨店でのイベント出店等）であることに当初、想像が至らなかったからだ。したがって、辛うじてオンラインでの諸氏の登壇が叶ったが、じつは事前の打ち合わせの日

程調整すら困難な状況だった。

時機と関連して、オンラインの参加者数が予想よりも低調だったことも気になった。テーマの設定上、横浜市内を中心に広報したのだが、もっと全国的にチラシの郵送や知人への周知を展開していれば、遠方からのオンライン参加者を促すことができたと考えられた。また別の選択肢として、平日の開催になってしまうのだが、大学の関連科目と同じ曜日・時間帯に開催する等の工夫を施せば、今回の貴重な発表内容をもっと大勢の若者（受講生）にリアルタイムで視聴してもらえたものと猛省している。この拙案については、改めて別の機会に実現を模索したい。

今後の展望としては、高望みかもしれないがフェリス女学院大学がフェアトレード大学に認証されるよう、一つ一つの基準の達成に向けてKTSが大学側に継続的に働きかけていく試みが必要である。例えば、基準3の「大学当局がフェアトレード製品を購入し使用している」では、実現性や継続性を勘案すると、フェアトレード認証紙を大学内の資料印刷や名刺印刷で広く使ってもらう案が考えられた。給茶機のメニューの中に、フェアトレードのコーヒーを採用してもらうのも一手だろう。

フェアトレードやエシカル消費に関する産官学民の連携に期待する点として、特に各団体の活動の情報や今回のような共催イベントを一元的に集約するインターネット上のポータルサイトが横浜にも存在すれば、多くの消費者や教育機関にとって利便性が高いと思われる。ただし現在のところ、こうした実務的なネットワークや発信力はきわめて弱いと言わざるを得ない。当セミナーが、今後、この公益的な「プラットフォームづくり」の探究の第一歩と位置づけられるように、当学会の共同研究プロジェクトの一つとして尽力していきたい。まずは静岡文化芸術大学発のカスカラティーをKTSのワゴン販売で陳列したり、KTSメンバーが勉強を兼ねて他団体のお手伝いのために事務所に足を運んだりという身近な連携を始めることができればと希望している。

末筆ながら、今回、お忙しい中、登壇いただいた各団体の方々に対して、KTS学生一同、そして共同研究者一同、心から感謝申し上げる。誠にありがとうございました。